

# 学 会 録 事

## 1. 2020年度第2回持ち回り評議員会

第2回持ち回り評議員会(2020年1月31日~2月14日)を開催し、【議案1】「日本藻類学会会則第3条第4号と日本藻類学会学会賞選考規程に基づき、第16回研究奨励賞(2020年3月授与)を西村 朋宏氏、および鈴木 重勝氏に授与する。」の可否を審議した。その結果、国内評議員16名のうち15名からの回答があり、回答者全員の賛成により承認された。

## 2. 2020年度第3回持ち回り評議員会

第3回持ち回り評議員会(2020年2月15日~2月28日)を開催し、【議案1】「日本藻類学会会則第3条第4号と日本藻類学会論文賞(英文誌「Phycological Research」)選考実施要領に基づき、第23回日本藻類学会論文賞(2020年3月27日授与)を以下の論文に授与する。

Kohei Watanabe, Yuri Homma, Hideyuki Karakisawa, Ryoko Ishikawa, Shinya Uwai

Haplotypic differentiation between seasonal populations of *Sargassum horneri* (Fucales, Phaeophyceae) in Japan (Issue 1, Pages: 59-64)」の可否を審議した。その結果、国内評議員16名のうち13名からの回答があり、回答者全員の賛成により承認された。

## 3. 2020年度第4回持ち回り評議員会

第4回持ち回り評議員会(2020年2月18日~2月28日)を開催し、【議案1】「日本藻類学会会則第3条第4号と日本藻類学会学会賞選考規程に基づき、学術賞(2020年3月授与)を野崎 久義氏に授与する。」の可否を審議した。その結果、国内評議員16名のうち15名からの回答があり、回答者全員の賛成により承認された。

※2020年度第5回持ち回り評議員会(2020年2月19日~)は議決保留となりました。

## 4. 2020年度第6回持ち回り評議員会

第6回持ち回り評議員会(2020年5月18日~5月28日)を開催し、以下の議案1~6の可否を審議した。

【議案1】2020年度評議員会の審議事項(1)「2019年度会計決算・同監査」について資料別紙1および2の通り承認する。

【議案2】同審議事項(2)「2020年度事業計画案」について資料13の通り承認する。

【議案3】同審議事項(3)「2020年度会計予算案」について資料別紙5の通り承認する。

【議案4】同審議事項(4)「学会賞の授与について」について資料14の通り承認する。

【議案5】同審議事項(5)「今後の大会開催地について」について資料15の通り承認する。

【議案6】同審議事項(6)「その他(6-1)会則改正および除名に関する申し合わせについて」について資料別紙6および7の通り承認する。

その結果、国内評議員16名のうち13名からの回答があり、【議案1】および【議案6】は「可」12名、「否」1名、【議案2】~【議案5】は回答者全員の賛成によりそれぞれ承認された。

※議案の内容については本誌の総会議題および資料をご参照下さい。

## 5. 自然史学会連合

2019年度自然史学会連合総会が、2019年12月21日に日能研・西日暮里教室6階大教室(東京都荒川区西日暮里5-38-5)で開催された。北山 太樹会員が出席。

<次期代表選挙>

現代表の大路 樹生氏が運営委員から推薦され、加盟学協会より推薦者なしのため、参加32団体で信任投票を実施した結果、信任32票、不信任0票で大路氏の再任が決定した。

<報告事項>

1) 加盟団体の現状: 38学協会。

2) 運営委員会の開催: 2019年に2回開催(5/16, 12/21), 3月に3回目を予定。

3) 講演会: ICOM2019京都大会サイドイベントとして国際シンポジウムおよびポスター発表“Network of Natural History Museums as a Tool for Promoting Research, Collection building, Education and Outreach: Case Studies from Asian Regions”を行った(共同開催: 京都大学総合博物館, 後援: 西日本自然史系博物館ネットワーク, 全日本博物館学会)。シンポジウム5演題(海外3名, 日本2名), 参加者44名, ポスター発表23件, 参加者56名(1日目来場者) + 353名(2日目入館者総数, 会場来場者は記録していない)。

4) 博物館部会: ICOM サイドイベントのポスターセッション準備業務・開催業務を遂行した。

5) シンポジウム後援: 2019年2月1日, 国立科学博物館(上野)にて開催された中学生高校生向けシンポジウム, 「海の生き物と研究活動について, 専門家から学ぼう! 海を探る, 海を調べる, キャリアと研究II」を後援。

6) 連合HPの運営: 2018年度総会(2018年12月)にて承認された「連合代表選挙に係る細則」を公開した。ICOM京都における国際シンポジウム関連情報を適宜公開した。2019年度運営委員会議事録を公開した。「お知らせ」を適宜掲載した。加盟学協会からHP掲載希望情報があれば申し出るよう依頼した。

7) 出版物: ①『理科好きな子に育つふしぎのお話 365傑作選』(誠文堂新光社, 2019年1月23日発行)。「びっくり編」「へ

んでこ編」「なぜ? どうして? 編」の3部作を出版。②『理科好きな子に育つふしぎのお話365』のインドネシア語版(1200部)が出版された。ベトナム語、タイ語版の出版計画も進行中。

- 8) その他：①生物科学連合からの「高等学校の生物教育における重要用語の選定について(改定)」に関する要望を自然史学会連合加盟学協会に連絡した。高校生物で学ぶべき重要単語494語を選定し、関係各所に要望書を送付した。②「特定科学施設包括(輸出・輸入)承認取扱要領の制定案等に対する意見」としてパブリックコメントを提出した。ワシントン条約保護生物の輸入にあたって、博物館資料の移送等の手続きを簡素化するための制度に日本(経産省)も参加するにあたって意見募集があり、国立科学博物館および分類学会連合と協議して連合の意見を提出した。③日本生態学会「大学保有の標本に関するフォーラム」の報告。日本生態学会とフォーラムを共催した(共催および助成については2018年総会で承認済み)。参加者96名(のべ約100名)。

#### <審議事項>

- 1) 2018年度決算：承認された。
- 2) 2018年度会計監査報告：問題なかったことが報告され、承認された。
- 3) 2019年度会計予算案について経過報告。国際シンポジウム開催にあたり助成金を受けた関係で予算執行計画が例年と異なっている。HP維持費が高額のため今後の方針を検討する。
- 4) 2020年度事業案：①運営委員会・博物館部会の開催。2020年度も例年通り3回程度の開催を予定。②講演会の開催。2020年12月に福岡県(北九州市立いのちのたび博物館)で開催を予定。2021年以降は未定。開催地の候補の推薦や立候補を求めた。
- 5) 2020年度予算案：HP運営費は2020年度中に見直しを検討する、などの議論を経て承認された。
- 6) その他：①連合運営規則(8)に基づいて、2020、21年度運営委員は現状の8名(資料3)+代表が継続して務め

ていくことが承認された。②会計監査員2名の選任：加盟学協会の持ち回り制(任期1年)とし、資料2の加盟学協会リスト(五十音順)に従って2団体ずつ指名する。ただし学会代表が運営委員である場合は担当できないため、当該団体を除外して次の団体に依頼する。③自然史学会連合の設立理念に鑑みた自然史学の現状や今後の連合のあり方についての議論が交わされた。④国立自然史博物館設立の動きに対する自然史学会連合の立ち位置に関して議論した。⑤日本における自然史標本(自然史財)の危機的状況について議論がなされ、文化財保護との接点の模索やその関連団体との協調などの新たな活動を模索していく必要があるという認識が共有された。

6. 和文誌「藻類」バックナンバーの学会HPへの掲載状況  
2020年6月11日現在、66巻1号までのPDF fileを閲覧・ダウンロードできる状況。なお、55巻1号～66巻1号のPDF fileは記事ごとのダウンロードが可能。

#### 7. 学会HPによる情報配信と記載内容の更新

- 2020年1月～5月に掲載・更新した内容は次の通りです。
- ・全国大学院生協議会よりアンケートご協力をお願い(大学院生対象)
  - ・日本学術振興会 育志賞授賞候補者の推薦について
  - ・第16回原生生物・寄生虫・進化(PPE)セミナーのお誘い【Online】
  - ・日本学術振興会賞授賞候補者の推薦について
  - ・平成29年度自然史学会連合講演会「瀬戸内海の自然史」の要旨集
  - ・長崎大学環東シナ海環境資源研究センター教員公募(環境保全科学分野・教授)
  - ・三重大学地域拠点サテライト・伊勢志摩サテライト教員公募(水産学あるいは情報科学、特にICT等を活用した水産業スマート化に関連する分野、助教または准教授、任期付き)